



千八百七十八年十月二十六日刊行東京タイムズ新聞抄譯

大藏省
翻譯課

日本ノ紙幣ヲ論ス



114
A3078



日本帝國ノ紙幣ヲ論ス

和田信郎 記

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

今一週間ノ洋銀ト紙幣トノ比較價格ハ屢々浮沈低昂ヲ為セリ
ト虫氏之ヲ前週ニ比スレハ其紙幣ノ相場ハ頗フル好況ヲ呈シ
テ洋銀為メニ下落シタリト云フヘシ即チ今一週間ニ於テ其相
場ハ動モスレバ原價ニ復スルノ勢アリシト屢々ニシテ其最後
ノ日ノ相場ヲ視ルニ洋銀ハ紙幣ニ昂レルト僅ニ壹歩五厘ニシ
テ之ヲ前ノ相場ニ比スレハ十七日ヨリ二十四日マデノ間ニ洋
銀ハ二三歩ノ下落ヲ致セルナリ

蓋シ日本國ト政府ノ信憑ニ向テ至大ノ害ヲ与フルモノハ彼ノ
窳モ不便ナル洋銀相場ノ沸騰是ナリ而シテ其沸騰ハ外國新聞
ノ簸揚スルニ因テ之ヲ起シ又此他ノ惡毒ナル新紙ノ之ニ誘導
セラレテ愈々之ヲ賛成シ喋々其下落ヲ唱一人ヲシテ聞クノ厭

大正十一年四月

ハレムルニ至ル然レ之ヲ聞ク人々ハ其言ヲ所虚喝ニレテ苟ク
モ燃眉ノ危急タル所以ノ実ヲ見ルヲ能ハサルナリ如何トナレ
バ先ツ当府ノ物價如何ニ就キ細心ニ探究ヲ為スモ聊ク其下落ノ
実証ヲ發見スルヲ得ステ後前ノ如ク同價ヲ以テ諸物品ヲ購
求スルヲ得レバ也乃チ國民一般ノ衣食住ヨリ此他百般ノ物品
ニ至ルマテ其價ノ昂貴シタル跡ナレ故ニ一方ニ在テハ洋銀ノ
浮沈ニ因テ相場師ガ朝夕危懼ヲ抱キ或ハ漫リニ外國人ノ説ニ
心醉レテ自カラ不幸ニ陥ル等ノヲアルモ一方ニ就テ見ルハ
ハ日本人民ハ更ニ此輩ニ関スルヲナクシテ昔日ノ如ク生計ヲ
為レテ憂ハリタルヲナレ要スルニ此ノ如キ相場師或ハ心醉者
ハ自己ニ不相應ノ高貴ナル衣服或ハ自己ニ適セザル所ノ高直
ナル飲食ヲ用タル者ノ如シ或ハ己レ自カラ經營スルヲ能ハサ
ル事業ヲ為ス者ト一般而已

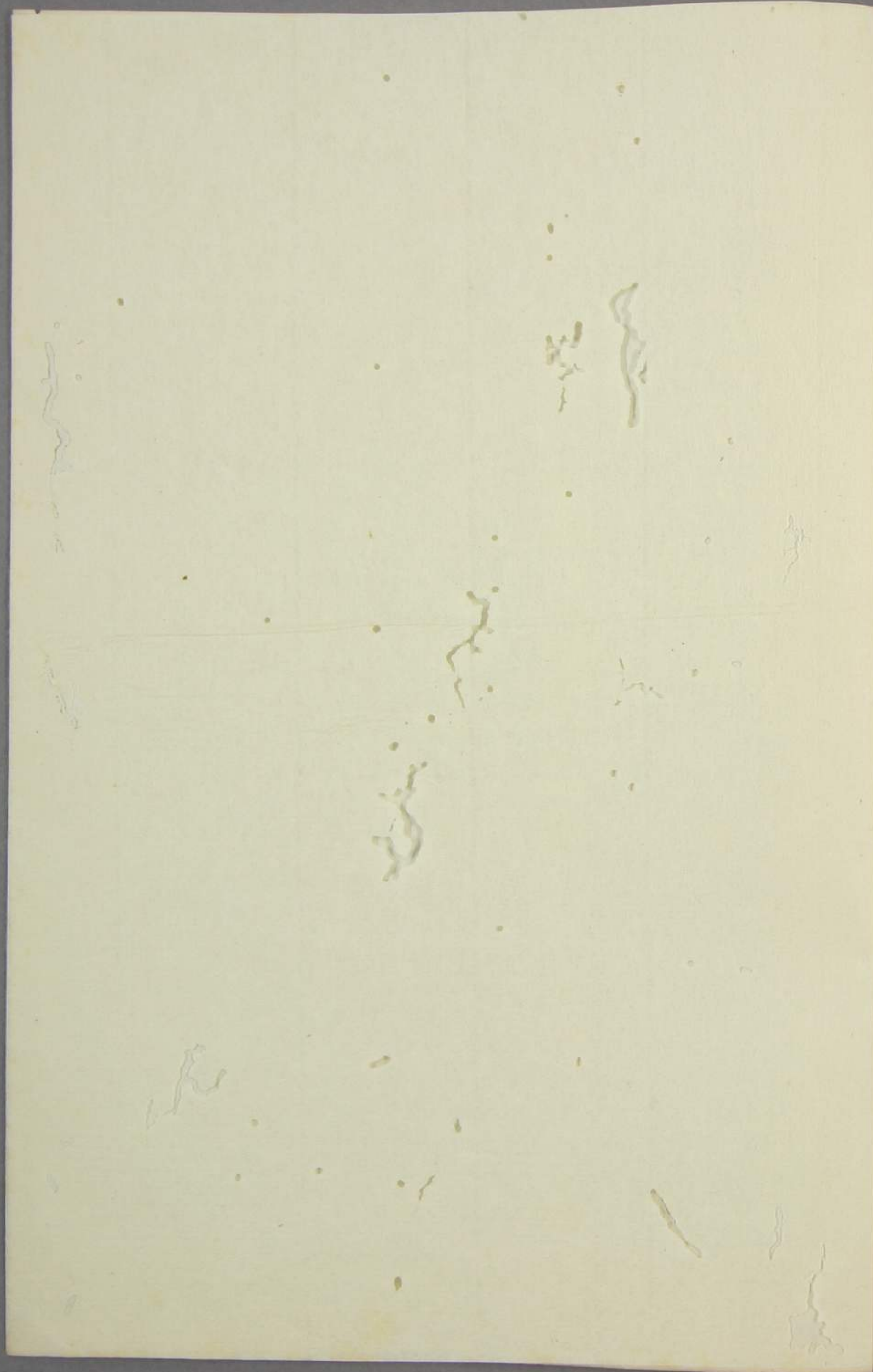
今若シ日本人民ニレテ日用ノ物品ヲ購求スルニ果シテ紙幣ノ
下落ニ感觸スルヲアラシメバ何人ニテモ之ヲ以テ一大変ノ端
緒ヲ聞ラシタルト認メザルモノナカルベシ然レ当府ニ在テ嘗
テ此ノ如キ憂慮スヘキヲナクシテ而モ紙幣ノ信憑更ニ減失セ
ス其下落ハ人々ノ意想ノ外ニアリト云ハザルヲ得ス試ミニ近
郊ニ遊フ者アレンニ新鑄無瑕ノ洋銀ヲ懷ニシ農家或ハ酒家ニ
入テ傲然トシテ之ヲ示レ而ト取ラレメント欲スルモ
得テ辨スヘカラス是其洋銀ノ相場如何ニ影響セラレタルヲナ
キノ致ス所ニレテ嘗テ近郊ノ人々ハ此ノ如キヲ見聞セザレ
バ也若シ又此洋銀ヲ吾國ニ拾得ニ流用スルニ在テハ其強迫ノ
手段ニ出ラタルニ外ナラザル也

然レモ幾分カ亦商業上洋銀ノ騰貴ニ因テ洋品ノ價昂リタルモ
ノアリ即チ洋銀ヲ以テ外高ヨリ買得レテ日本人民ノ販賣スル

物品ハ六ヶ月前ニ比スレバ其價ハ三步ヨリ五歩ニ昂貴セリ今
若シ此ノ如ク物價ノ沸騰シタルニ因テ其需要減少シタルモノ
トセバ日用品ノ相場ニ在テ是割ハ歩割九歩若クハ二割ノ昂
起ニ比スレバ其減少ハ誠ニ些々タル而已シテ其紙幣ノ下落打
續ト雖モ内國ノ商人ハ聊カ之ヲ意トセザルガ如シ又外國人が
喋々其下落ヲ揚言シ之ニ教唆セラレテ日本人民ノ之ニ雷同ス
ル者アルモ商家ハ皆聰明ノ耳目ヲ以テ其虚喝タルヲ會得レテ
其下落シタルヲ信スルモノナシ

今試ニ日本紙幣果レテ下落シタルモノト假想シ又日本國民一
般ニ其紙幣ハ確固ニシテ貴重スヘキモノト信用セザルト假想
シ又其人民ノ真ニ要用トセザル外國物品ヲ購求スルニ僅ニ其
開港場限リ派用スル洋銀ノ昂起ニ影響セラレテ之ガ為メ日本
ノ外國貿易ノ実力衰耗スルニ至レルト假想スルハ果レテ何

ヲ以テ其弊害ノ極度ト為スヤ日本人民ハ唯外品ヲ求ムルニ高
直ヲ以テスルニ非ザレバ之ヲ得難シトスルニ外ヲラス而レテ
陸續其輸入ヲ為サント欲スルモ到底日本ノ正金ヲ輸出スルニ
至ルガ故ニ其勢自カラ外品ノ輸入ヲ遮断シ洋銀ト紙幣トノ相
場ハ如何ナルモ日本紙幣ト紙幣トノ相場ハ相背馳シテ其権衡
ヲ失スルガ如キニ至ルトナキヤ必ズ思フニ憂世過慮ノ論者
ハ當時ノ形勢ヲ以テ困弊ノ極ホテフ。虫氏是レ架空ノ言論而已
今日ハ即チ一般繁榮ノ景況ニシテ尚ホ將來ニ此繁榮ヲ期スル
モノアルアリ乃チ現在着手セル九百ノ工業製造ハ愈々之ヲ改
良振作スヘシ又新事業モ起スヘシ而シテ遂ニ輸出貿易モ得テ
之ヲ興振スヘシ又何ゾ當時ヲ以テ衰運ノ徴ト認ムルヲ得ヘケ
ンヤ敢テ恐ルハニ足ラザル也



--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

大
藏
書

